

2024年度 学校評価票(総括)

Ⅰ. めざす学校像(ミッション・ステートメント「建学の精神」)(「基盤的目標」) 本学の建学の精神は、キリスト教精神である「自由と愛」です。自由には他者への愛と責任がともないます。「自由」とは一人ひとりの人格と主体性を尊重すること。「愛」とは互いに仕え合いながら他者と共に生きることです。この自由と愛の精神は、単にキリスト教の立場だけでなく、全ての人間が一致しうる普遍的な理念であり、人類共通の目標です。人間のそのような可能性を開花させながら、高い理想を目指してチャレンジしつづけていくこと、それこそが桃山学院の一世を超える伝統が目指そうとする「キリスト教精神であり、「世界の市民」への道なのです。					
---	--	--	--	--	--

Ⅱ. 最重要目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
1. 建学の精神と学校づくり	建学の精神、校風を大切にした学校づくりを行う。面倒見の良さを堅持しつつ働き方改革をすすめる。各コースの役割を振り返り、改革をすすめる	すべての教員が建学の精神と校風を理解すること。 仕事の見直し・精選。働きやすい職場づくり、休職のとりやすい環境。外部委託も含め放課後のとりくみを強化。コースの役割の明確化と改革	①働きやすい職場 ②個々の教職員の創意工夫 ③労働負荷軽減 ④心身の健康への配慮 ⑤外部委託の状況 ⑥コースの振り返り	○	いろいろな場面で建学の精神の重要性を発信した。 ①教員面談を実施し、より良い職場環境の実現に結びつけることができた。 ②働き方改革についてもいろいろな機会に発信し、先生方も意識的に取り組んでいた。 ③引き続き負担の多い部署への軽減を行った。 ⑤放課後個別指導の新しい取り組みを実施。
2. 大学合格実績の向上	海外の大学も視野に入れ、生徒の志望校を大切に。生徒の未来に寄り添った進路指導を行う。前年度の実績を上回る	講演会などの取り組み。志望校宣言の工夫と発展。共通テスト対策、難関大学対策、英検対策、諸論文対策など外部委託を含め充実させる	海外の大学の推進、難関国公立・難関私大現役合格率を前年度比増を目指す	○	難関国公立大学・難関私立大学には多くの合格者を出し、昨年度に引き続き、安定した結果を残した。海外大学にも6名が進学した。
3. いのちの教育のさらなる推進	生命の尊さ、かけがえのなさと共に、人知を超える「いのち」の神秘を知る心を育てる		生徒・保護者・教職員自身の実感を伴うものとなるよう学校評価アンケートでの評価を一つの指標とする	○	新しいことはできなかったが、いのちの大切さを伝えることができた

Ⅲ. 中期的目標(3年が目安)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
1. キリスト教精神をたいせつにする	キリスト教精神への理解と共感の幅を広げる。またキリスト教教育・行事等を通じ、他者と自分自身を大切にできる心や寛容の心を育む	①朝の礼拝を大切に ②キリスト教精神に基づく行事を大切に	①朝の礼拝の精進を保つ ②生徒や教職員の積極的参加		本校の見学の精神を大切にすることができたと感じている。これからも、教育の中にキリスト教精神を取り入れていくつもりである
2. 授業をたいせつにする	①授業時間の徹底 ②自習課題と振り替え授業の充実 ③授業見学の発展 ④日々の時間割変更の周知徹底	①開始時刻と終了時刻の厳守 ②自習課題と振り替え授業の充実 ③授業見学の発展 ④時間割変更の把握と連絡	①相互で確認 ②連絡方法の再検討 ③意見交換の充実 ④時間割変更の共有手段	①△ ②○ ③△ ④○	①授業終了時刻前に教室を離れることが散見された ②クラスルームでの配信など、自習の指示は適切であった ③授業見学で得られた知見の共有方法 ④サイボウズでの時間割変更の配信
3. 生活習慣の確立	①自主規律の確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止 ④インターネット上のトラブル防止 ⑤携帯電話の使用マナーの徹底	①自主規律HRの活用 ②自治会指導部との連携 ③朝礼遅刻の防止 ④ネットリファインを学ばせ人の気持ちを考えるよう指導 ⑤使い方を指導し、マナーの会得や学習時間を確保させる いずれの項目とも特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③担任指導の強化 ④⑤問題件数の減少	◎	いずれの項目も適切に実施することができ、効果的な指導に繋がっている。近年では指導案件も減り、落ち着いた教育環境を実現できている。ただし、指導案件や区区分身だしなみ違反は0にはならず、継続した指導が必要
4. 活発な自治会活動の推進	①自治会執行部・生徒会を中心とする各種委員会の運営 ②学校行事・HRの見直しと発展	①HR委員会の活性化と評議委員会の再開 ②文化祭開催時期の変更による各種行事の運営の円滑化	①自治会・生徒会会則に記載の通りに生徒集団が動けるように働きかけをおこなう ②体育祭と時期が移行した文化祭を中心とした学校行事を通して生徒満足度の向上を目指す	①○ ②○	①生徒心得に記載された禁止項目の見直しを求める声を執行部が拾い上げ、評議委員会による議論を継続的に実施し、学校への意見書をまとめるに至ることができた。 ②文化祭の時期を変えたことで、クラスの取組みが一層豊かになったようだ。各学期に目指すべき行事があることで、学校生活の満足度に資することができると考える。
5. 進路について	①探究活動に加えて、大学進学に関する自発的な情報収集力や行動力の養成 ②難関大学に合格するための学習効果や受験戦略の育成 ③学年ごとに行っている進路取り組みの共有	①進路HRやオープンキャンパスにおける生徒自身による取り組み ②希望制模試の受験や推薦入試への積極的な挑戦 ③進路HRなどで行った情報の蓄積	①教員による年間計画と生徒による実施レポートの作成 ②次年度への引継ぎ資料を整える ③定期的な案内と教員対象の進路講演会への参加 ④次年度につなげる年間計画の作成	①△ ②△ ③○	①年間を通じた指導ができるように、前年度の取り組みが参照できるよう努める ②医学部や海外大学の講演会は聞いたが、教員の参加人数を増やしていきたい ③進路の取り組みは今後も蓄積していく
6. 中学の課題	①大学進学を見据えた学力向上 ②行事の充実を維持しつつ、効率化を図る ③受験生の増加 ④生徒支援システムの構築	①授業力の強化と放課後の取り組みの充実を引き続き取り組む ②ICTツールを駆使し、また、次年度の引継ぎも意識しながら、ワークフローを整理していく ③広報活動の充実・成績上位層の確保 ④生活指導部との連携強化	①外部模擬試験結果(過年度比較) ②次年度への引継ぎ資料を整える ③受験生の増加。受験生の偏差値状況の分析 ④システムがいかに構築されたか	①○ ②○ ③○ ④△	①模擬試験の結果では、負けじとも劣らない結果となった ②中学校全体としての引継ぎ資料が非常に整っており、スムーズな連携へと繋げることができた。③昨年に引き続き、過去最高の出席者数となり、また、一定の学力レベル以上の新入生の入学につながった ④まだ担任や学年によるものが大きく、システムの構築とまでにはならなかった
7. 入試広報の充実	建学の精神を広く広報する	国公立合格者数、一貫コースの大学合格実績のアピールを行う。	北大版急行延伸の真面と豊中地域での説明会を千里中央で実施する。	○	豊中市の昨年度受験者数を維持できた。
8. いのちの教育の推進	いのちについて知識を深める	いのちに関連させたプログラムを実行する	年末の学校評価アンケートでのフィードバックを目安とする	○	講演会もでき充実した内容だった
9. キャンパスの整備	①キャンパスの整備につとめる	①施設の改善点等の把握 ②施設の充実	①教員からの意見等 ②生徒保護者の満足度などが得られるように努める	○	F館に中高同窓会およびPTAの協力のもと、学院歴史展示コーナーを設置した。

Ⅳ.各学年別目標(中学議会・担任会)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
中学1年	①生活習慣の確立 ②学習習慣の確立 ③言語活動、生徒支援の充実	①廊下生にふさわしい生活習慣をしっかりと確立するとともに、自ら責任を持って時間管理ができるようにする。遅刻の指導を丁寧に行い、その背景にある問題の理解・解決に努める。タブレット(スマートフォン)の適切な扱い方を習得させる指導を強化する ②「夢の実現」のため、学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育む。授業やHR・面談等において、適切な学習方法・内容・量について継続的に指導し、ひとりひとりに合った学習スタイルを確立させる ③正しく丁寧な字、文章、言葉遣いを大切にさせるとともに、生活や学力の基礎となる言語能力の向上に努める。生徒の心身の健康状態に留意し、ひとりひとりの生徒に必要なサポート・支援を検討、共有した上で生徒支援を行う。発達状況や特性に応じた学習支援を行う	①遅刻数、タブレット(スマートフォン)の指導件数の減少 ②模試、定期考査での成績向上。 ③こまめな指導により、生徒の状況把握に努める。	①○ ②○ ③○	①遅刻や欠席は比較的に少なかった。また、スマホやタブレットの指導件数も少なかったため、このまま指導を継続していきたい。 ②学習習慣の確立を指導してきたが、効果が出ていて一方で提出物などが不十分な生徒も一定数いるため、継続した取り組みが必要である。 ③様々な取り組みを行うことができた。継続していきたい。
中学2年	①生活習慣の確立 ②学年全体の学力向上。	①遅刻・欠席を減らし、規則正しい生活を身につけさせる ②中上位生徒はより意欲を持って自主的な学習に取り組ませる。学力不振の生徒は、提出物の徹底、基本・基礎事項の徹底。	①遅刻数・欠席日数の減少 ②模範試験、定期考査での成績向上	①○ ②○	①昨年度よりも不登校の生徒は増加したが、それ以外の生徒は遅刻、欠席は減少した。 ②模試の結果は昨年度よりも良くなり模試対策の効果があらわれた。定期テストは上位者の学習時間、意欲は向上し、高い学力を維持することができた。
中学3年	①学習習慣の確立 ②進路選択に向けた意識作り	①提出物、定期試験前後の取り組み、模試 ②大学見学、キャリアガイダンス等	①日々の提出物や定期試験前後の取り組みを確立することにより、自学自習ができる生徒を育て、それが結果につながるという成功体験をさせる。 ②夏の東京合宿時の大学訪問、キャリアガイダンスを通じ、自分の夢をできる限り明確な形にする	①○ ②○	①提出物は担任、教科担当教員の声掛けもあり以前より改善はみられた。遅刻、欠席に關しても事情のある生徒が数名いたが、改善が見られた。 ②普段の学校生活では見えにくいリアルな話などが聞けたことで、自身の今後を考えるきっかけとなった。

高校1年	①学習習慣の確立 ②生活習慣の確立 ③HR活動、探究的・総合的学習、生徒支援の充実	①学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育み、生徒の夢や目標の達成に向けて学年全体で取り組む。授業やHR・面談等において、適切な学習方法・内容・量について年間継続的に指導する ②自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。BYODに伴い、タブレット・スマホ・携帯電話の適切な扱い方を習得させる指導を強化する ③進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信。生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する。生徒の心身の健康状態に留意し、一人一人の生徒に必要なサポート・支援計画を検討し、教員団で共有した上で、生徒支援を行う	①日々の授業・定期考査を大切にし、その上で模試成績の向上を目指す ②朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なタブレット・スマホ・携帯電話の扱い方を習得させる ③内容の充実を図る	①◎ ②○ ③○	①こまめな課題提出を行い、日々の学習の大切さを伝えることができた。定期考査の平均点も全体的に高く設定することができた。生徒たちのやる気も高く保つことができた。ポートフォリオを用い、自己分析させることを各コースや各クラスで取り組んだので、継続して実施したい ②遅刻指導、スマホ・タブレットの指導はその都度こまめに実施したが、今後も繰り返し指導する必要がある ③次年度の進路目標実現に向けて、さらに向上させていきたい。
高校2年	①学習習慣の確立 ②生活習慣の確立 ③HR活動、探究的・総合的学習、生徒支援の充実	①学習に対する積極的な姿勢・学ぶ意欲を育み、学力の向上を図り、生徒の夢や目標の達成に向けて学年全体で取り組む ②自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。タブレット・スマホの適切な扱い方を習得させる指導を強化する ③進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信。生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する。生徒の心身の健康状態に留意し、一人一人の生徒に必要なサポート・支援を検討し、教員団で共有した上で、生徒支援を行う	①模試成績の向上 ②朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、適切なタブレット・スマホの適切な扱い方を習得させる ③内容の充実を図る	①◎ ②○ ③○	①模試ではS選抜コースが最上位層として厚くなり、また下位層を減少させることが出来た。 ②遅刻指導、スマホ・タブレットの指導は小まめにすることができたが、今後も必要性を感じる。 ③次年度の進路目標実現に向けて、さらに向上させていきたい。
高校3年	①進路目標の実現 ②生活習慣の確立 ③HR活動、探究的・総合的学習、生徒支援の充実	①それぞれの進路目標の実現に必要な学力をつけ、生徒の目標達成に向けて学年全体で取り組む ②自ら責任を持って時間管理ができるようにさせる。朝礼遅刻を含む遅刻の指導を丁寧に行い、下校時刻も守らせる。スマホ・タブレットの適切な扱い方を習得させる指導を強化する。生活習慣の維持に努め①の目標達成に繋げる ③進路目標の実現に必要な情報の積極的な発信。生徒が自らの考えを深め、課題の解決に努めることができるように指導する。生徒の心身の健康状態に留意し、一人一人の生徒に必要なサポート・支援を検討し、教員団で共有した上で、生徒支援を行う	①生徒の第一志望合格 ②朝礼遅刻を含む遅刻数を減少させるとともに、スマホ・タブレットの適切な扱い方を習得させる ③内容の充実を図る	①○ ②○ ③◎	①目標を実現する生徒も多く、ある程度の達成が見られた ②難しさはあるが、スマホのルール設定は一定の効果があった ③必要な指導を行うことができた

V. 各コース目標(コース全編)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
一貫コース進学	①大学合格実績の向上 ②勉学だけでなく総合的な学校の満足度の上昇	①六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂 ②HRや行事の充実	模擬試験の結果。最終的な大学合格実績 生徒や保護者へのアンケート	△	担任や教科担当の入れ替わりの激しい学年で、伸ばしきれなかった部分がある。
一貫コース選抜	①大学合格実績の向上 ②勉学だけでなく総合的な学校の満足度の上昇 ③S選抜コースの成功	①六年一貫指導計画のさらなる充実、改訂 ②HRや行事の充実 ③S英数・S選抜コースとの連携強化	模擬試験の結果。最終的な大学合格実績 生徒や保護者へのアンケート	△	高3はS選抜コースとの連携は密であったが、S選抜コースに成績上位の生徒が抜けたことで、これまでの選抜とは雰囲気が変わり、難関校合格の実績を上げることは難しかった。
文理コース文理	①国公立大学、難関私立大学の進学実績向上 ②入試に活用できる英語検定試験の学力アップ ③クラブ活動への積極的参加	①普段の授業、模試の活用等 ②普段の授業、朝学習等 ③各クラブ顧問と担任との連携等	①国公立25% 難関私立大50%（文理全体に対する延べ人数合格率） ②英検2級以上の取得率の上昇 ③年度初めと年度末のクラブ加入率の差	△	国公立は9%で目標には達しなかったが、難関私立大は66%（前年比132%）と大幅に増加した。
文理コースアスリート	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備、選考会への派遣	①大会結果 ・近畿大会(出場・入賞) ・全国大会(出場・入賞) ②代表選考結果	○	・近畿大会に水泳、ハンド、バレー、サッカーが出場(水泳は優勝、ハンドは準優勝) ・全国大会へは水泳・ハンドが出場(水泳は総合6位) ・国際大会 日韓中アジア競技会にハンド部から1名選出 U19バレーボール韓国代表に1名選出 卒業生がバレー五輪に2名出場(ハンド・トランポリン)
英数コース	難関国公立大学を含む、第一志望大学、および志望学部への合格 コースの取り組みの見直し	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、より高い志望への進路の意識付け 【高3】大学入学共通テスト対策・難関国公立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果を注視し、問題点を探る 【高3】①大学入学共通テスト結果の向上をめざす ②第一志望大学への合格率を高める	△	入習ステージの在り方、S選抜コースの入試結果を踏まえて、さらなる改善や撤廃も含めて検討の余地あり
S英数コース	難関国公立大学を含む、第一志望大学、および志望学部への合格 コースの取り組みの見直し	【高1・2】伝統ある校風を守りつつ、より高い志望への進路の意識付け 【高3】大学入学共通テスト対策・難関国公立二次対策指導	【高1・2】模擬試験の結果を注視し、問題点を探る 【高3】①大学入学共通テスト結果の向上をめざす ②第一志望大学への合格率を高める	△	入習ステージの在り方、S選抜コースの入試結果を踏まえて、さらなる改善や撤廃も含めて検討の余地あり
国際コースクラス	①国際社会で通用する英語での論理構成力の基礎作り ②大学入試に左右されない国際コース独自の評価基準の確立と大学入試にも強い英語の指導方針の策定 ③特色あるカリキュラムの改良・発展	①留学の事前・事後指導の充実 ②ケンブリッジ英語検定をはじめとする英語の資格試験の全員受験 ③高1・高2における留学事前・事後教育カリキュラムや外部講師を招聘した特別カリキュラムの実施と検証及びその改良	①外部テスト(ケンブリッジ英検・英検・GTEC) ②受験後の生徒へのアンケートと英語教科内での評価 ③受講後の生徒へのアンケート	○	留学後の調査では、担当者が的確で詳細なアンケートを実際し、今後に生かすことができた。

VI. 各部の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
教務部	キャンパスプランの安定した運用 成績などの正確な入力 時間割変更内容の周知徹底	ICT委員会等と連携し安定した運用を目指す。 新デジタル出席簿、見込み点の算出の確認 時間割変更の一括報告	成績処理および高3調査書の発行	△	キャンパスプランへの入力ミスが目立つ。見込み点算出のシート、デジタル出席簿は有意義に活用されている
生活指導部	①自主規律HRの確立 ②挨拶の励行 ③遅刻防止	①自主規律HRの活用 ②自治会指導部との連携 ③朝礼遅刻を含む遅刻指導 ①②③とも特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ	①実施内容のレビューとワークシートのフィードバック ②生徒教職員への意識付け ③朝礼遅刻数減少	◎	いずれも生徒の成長に対し効果的に指導できた。特に第5回特別生活指導週間では、朝礼遅刻3回で遅刻反省文のキャンペーンを実施したところ、遅刻数が減少するなど成果が見られた
自治会指導部	①部活動顧問の負担軽減の推進 ②中学校生徒会会則の見直し	①顧問代行制度の利活用の推進 ②08年開設当初から暫定的施行状態の会則の改訂	①昨年度より多くの教員体制となり、一人当たりの負担は軽減されると想定されるが、時間外労働を削減するため、制度の併用も促したい。 ②自治会会則との違いを明確化し、中学校独自の会則へ見直しと改訂を行う	①○ ②○	①24年度終了時点で8つの部活動が制度を利用している。23年度と比較すると顧問スタッフ数は増加し、ゆとりはあるが、部活動という業務の在り方は引き続きの検討課題である。 ②原案の作成まで達成することができた。25年度内に、暫定施行から中学校独自の生徒会会則へ移すことを目標とする。
進路指導部	①生徒・教員への進路情報や探究活動についての適切な提供 ②進路指導室の有効活用 ③三学年を縦断した進路情報共有	①進路関係の情報を整理して適切に配布・配信、探究活動の推進 ②担任による進路面談利用や面接練習の実施 ③進路HRの実施内容の開示と蓄積	①データ化を推進して分類・保存・蓄積 ②誰もが利用しやすい環境維持と整備 ③聞き取りや報告の習慣化	①○ ②△ ③○	①進路指導室に届いた生徒が参加できる活動等のお知らせを発信し続けた。次年度も継続する ②進路指導室が資料で溢れていた時期があった ③学年ごとに進路の取り組みを蓄積し、次年度に取り組みをつなげることができた

Ⅷ. 各委員会の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国際教育委員会	国際コース独自の取り組み模索 国際コース改革における課題のクリア EP留学の周知 中国人留学生の一定数確保	①コロナウィルスの影響による留学内容の変更等に対応(国際コース) ②コース独自の取り組みの更なる充実(国際コース) ③渡米留学希望生徒の一定数確保に伴うホストファミリーの確保(EP) ④入学内定試験の実施(中国人留学生)	①行き先をカナダに据えての実施を検討 ②平常授業に特色のある取り組みを更に取り入れる ③5名前後 ④秋ごろには国内外いずれかで実施	○	①台湾への1週間程度の留学を希望制で実施予定 ②Advanced Englishを新設 ③24年度よりターム留学、25年度より1年留学が3名に拡大 ④25年度は6名が入学
ICT委員会	・ICT委員会の業務整理 ・校内のICTインフラの整備、保全 ・教職員のICT活用スキルの向上	・公式SNSやwebサイトを活用した広報の推進 ・F館職員室の有線LAN環境の整備、教員用Wi-Fi利活用の普及、新しいICT機器の検討や提案など ・デジタル採点、ICT機器、アプリ、グループウェアなどの利活用の促進	・ICT委員会の年間業務マニュアルを作成する ・年度内の整備、保全実績をまとめる ・デジタル採点利用率向上、他		・年間業務内容をまとめた。 ・ICT支援員(株式会社NSD)に依頼できる内容を増やし、ICT委員や詳しい教員の負担を軽減した。 ・教育総合展(EDIX)に出向き、最新の教育系サービスや校務支援システムの情報を収集した。 ・委員の人員が多く設定されているが、任せる業務が多くないのが課題 ・教員用ノートPCのリプレースが実現。 2025年度の夏を予定。 ・デジタル採点の利用率が向上した。
入試広報委員会	建学の精神を中心にした広報活動に努める	大阪北部箕面・豊中と尼崎・西宮地域への広報活動を行う。	説明会などの広報活動において入試広報委員中心に全教員が協力する。	○	外部説明会への参加負担の偏りが少し改善された。
いのちの教育委員会	①生徒保健委員会 生徒による保健活動を活発にする ②いのちの教育に関して 「いのち」の尊さや厳かに触れ、またその神秘を体験的に感じる機会をつくる	①行事での委員会活動・各種ポスター作成活動など ②AED講習・いのちの日・警プロジェクト・ボランティア活動・中3カフェテリアの取り組み	生徒保健委員会の実施内容 ・行事ごとのクラスの衛生管理 ・保護犬活動 ・(中学)熱中症/感染症ポスター作成	○	すべて実施することができ、いい成果が見られた
人権教育委員会	人権教育に関して 社会に存在する様々な人権問題に関心をもち、理解を深める	人権HR、映画鑑賞会、啓発活動などの取り組み	各学年での人権教育の生徒からの感想文、教員からのフィードバック	○	人権HRや映画鑑賞は全て実施し、生徒・教員からの感想も良好であった 啓発活動はもう少し実施したいと思うので、日程を確保し内容を精査したい
宗教教育委員会	宗教教育に関して 礼拝や折り、各種行事を通して自他の尊敬を大切に する心を養う	礼拝・行事でのマナー向上	①礼拝・行事・講演会等の充実 ②PISITISの紙面充実		宗教教育に関して目的を達成していると感じている。また、ビステイスに関しても協力者と共に良いものが作れていると自負している
公費助成委員会	①公費助成拡大の理念の普及・拡大 ②はがき運動・署名運動の拡大 ③署名数の増加	①従来からの取り組みの継続 ②従来の取り組みのさらなる充実 ③新しい取り組みの模索	①はがき回収枚数前年比+15% ②署名数前年比+15% ③活動の主体・内容の拡大について検討する	①○ ②△	①1120枚、昨年とほぼ同数(-5枚) ②9905筆、昨年より-1958筆 ともに目標数は達成できなかったが、無償化の流れの中でも保護者・教員一体の運動の継続はできている

Ⅷ. その他委員会の目標(1)	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
生活指導部(生徒支援)	①支援制度の確立・全教員への理解と認識の強化 ②引き継いでいくことが可能な学校全体での支援体制の構築。	①生徒支援理解を目指した積極的な事例研究や研修・情報共有 ②合理的配慮の実施と目標達成に向けた指導 ③自宅学習支援生徒への指導・対応	支援制度や合理的配慮に対する理解・認知 各支援生徒の目標達成具合	○	支援制度への理解と認識の強化は深まってきた。更なる体制強化をしていきたい。
危機管理委員会	①全構成員の危機管理意識の強化②防災訓練等のさらなる発展	①不審者一時対応の発展②避難訓練の発展	①②訓練が充実したものになったか。	①○ ②○	定例の訓練を実施し、危機管理意識の育成に努められた
修学旅行委員会	①国内修学旅行プランの充実	①業者の意見等を参考に委員会で検討	予算変更(2025年度入学生より)前のプランを可能な限りより良いものにする	○	予算変更前最後のプランを決定。追加徴収をできるだけ抑えることができた。
カリキュラム委員会	新カリキュラムについてより理解を深める	教科中心にスムーズな移行を目指す。	教科会議での意見交換等	△	情報科の授業展開に課題が見いだされた。
アスリート委員会	①5クラブの全国大会出場ならびに上位進出 ②日本代表またはそれに準ずる選手の輩出	強化合宿、遠征の充実、練習環境の整備、選考会への派遣	①大会結果 ・近畿大会(出場・入賞) ・全国大会(出場・入賞) ②代表選考結果	○	・近畿大会に水泳、ハンド、バレー、サッカーが出場(水泳は優勝、ハンドは準優勝) ・全国大会へは水泳・ハンドが出場(水泳は総合6位) ・国際大会 日韓中アジア競技会にハンド部から1名選出 U19バレーボール韓国代表に1名選出 卒業生がバレー五輪に2名出場(ハンド・トランポン)
予算委員会	①経費削減にさらに努める ②予算の適正配分と適正執行	予算委員会での議論を深める	委員会での振り返りをていねいにおこなう	○	適切に実施された
入試委員会		高校入試ガイドラインの見直し	1学期中に結論をだす	○	文理クラスのガイドラインを見直した。
補導調整委員会	①補導案件の未然防止 ②適正な補導措置の実施	①日常および特別生活指導週間、始業式終業式などでの呼びかけ ②生徒の事情、学年間・案件による差異の出ないよう慎重な議論	①補導案件の減少 ②措置生徒の更正	○	生徒の成長に対し適切に実施された
M1会議	桃山学院中高の将来像を考える	2021年度に解散となったが、更なる改革を協議し必要な場合は再度発足させる	2021年度に解散となったが、更なる改革を協議し必要な場合は再度発足させる	△	発足させず。探究プロジェクトチームを2025年度より委員会として活動させることを決定した。

Ⅷ. 各教科の目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標(目標)	自己評価	自己評価のコメントと今後の課題
国語科	生徒の表現・思考力を高める教科指導力の向上	①指導法・情報・資料の共有 ②漢字検定 ③小論文模試・小論文講座 ④ICT活用やアクティブラーニングも含めた新たな授業展開の共有	①新課程・新入試への対応。教員間の情報共有による安定した教育環境を整える ②小論文を教科を越えての学校としての取り組みにしてい	△	高2理系の古典探究の時間が減った中、どのように学力を担保するか
地歴公民科	生徒の学力実態・目標に応じた教科指導力の向上	①新過程・入試改革への対応(特に共通テスト) ②デジタル教材・データの蓄積・共有 ③教科指導力向上	①今後の入試制度・新過程に応じた授業内容の充実 ②電子黒板で活用できる教材の蓄積・入試問題データベースの整備 ③研修・セミナー等への参加促進、授業事例の共有	①○ ②○ ③△	①入試制度改革、特に新課程に則した共通テストに対応するため、入試セクターが発表した試行問題などを中心に教科内で分析と対策が練られた ②教科書採択の際に出版社から付随して得られるデジタル教材を中心に、電子黒板で活用できる教育教材の整備が行われた。また、入試問題データベースのイグザムを更新した ③なかなか皆、多忙であり、積極的に研修やセミナー等への参加が進んでいない
数学科	教科指導力の向上	①大学入試共通テストへの対応 ②数学オリンピック・数学甲子園などへの指導 ③教員同士による授業見学、指導法の研究会	①研究会への参加と情報の共有、共通テストの結果 ②数学オリンピック・数学甲子園などでの予選成績の結果 ③授業力向上・改善	①○ ②○ ③△	①教科主任が集まる会議に積極的に参加するよう、情報交換できた。西村先生がかなり研究会に参加してくれていた。また、共通テストでも一定の成績を修めた ②高校2年生を中心に積極的に参加していた ③まだまだ改善の余地あり
理科	生徒の学力・表現力の向上を目標とした指導力の向上 ICT機器の授業への活用	①各種自然科学系オリンピックへの対応 ②新課程・入試改革への対応検討 ③高3講習を全員で担当 ④ICT機器を用いた授業を研究する	①各種自然科学系オリンピックでの結果 ②カリキュラムの検討 ③共通テストの結果 ④授業見学や、そのあとの反省会の充実	①○ ②△ ③○ ④△	①化学オリンピックにエントリーした。 ②中学理科のカリキュラムについて再検討中 ③よい結果を残した。 ④反省会を実施できず

英語科	大学進学実績と生徒の英語力を高める教科指導力向上	①大学進学実績向上のための教科指導改善 ②ICT教材の有効利用と指導法研究 ③英語各種検定試験についての対応と生徒指導	①大学入試の指導に直し、より適した教科指導法の模索(研究会への参加等)、最新の大学入試に対応できる教材の研究、授業見学ができたか ②学習用ICT教材を積極的に試用し、その評価について情報共有ができたか ③検定試験についての情報を積極的に広報し、申込準備を行い、検定試験に対応するための生徒への指導を行うことで、受験率・合格率が向上したか	①○ ②○ ③△	①定期的な授業見学と、各種研究科への出席による指導力向上に努めながら、大学入試問題を教員が率先して分析し、講習や教材の改善という形で生徒へ還元した ②Weblio Studyやオンライン英会話を用いることでコミュニケーション能力を養成しつつ、検定試験対策に割く教員の負担を軽減できた ③積極的に検定試験受験について広報し、受験率の向上を達成、検定試験協会から賞状を授与された。
保健体育科	①教科指導力の向上 ②授業内容の改善・充実	①授業見学の強化 ②授業内容の改善・充実	①実技の指導力が高まっているか。 また安全面や生徒ひとりひとりに適切な配慮ができて いるか ②従来の指導法に満足することなく、時代や生徒にあった新たな指導法や指導力がしっかりと身について いるか	①○ ②○	①積極的に授業見学がなされていた ②常に新しい情報を取り入れて、生徒にあった指導がなされた
芸術科	授業力の向上	授業見学、情報共有の強化	実技の指導力が高まっているか 生徒が楽しく芸術活動にとりくめたか	○	教員間で授業の進捗を確認しあい、よりよい指導方法を共有し合った
情報科 技術科	①授業力の向上 ②授業内容・計画の改善・充実 ③共通テストへの情報収集・授業での対応	①授業見学の強化 ②教材の改善・打合せの充実 ③各大学の対応をまとめ、教員・生徒へ情報伝達	①共通テストに向けての指導力が高まっているか ②綿密な打合せの場が確保されているか ③正確で迅速な情報共有ができていますか	①△ ②○ ③○	①共通テスト対策に向けての指導力強化が必要 ②計画を常に見直し、改善して行けた ③教員間での情報提供がより必要である
家庭科	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実 ③調理実習の充実	①授業力の向上 ②授業内容の改善・充実	①実技の指導力が高まっているか ②綿密な打合せの場が確保されているか	①○ ②○	①調理実習を中心に各実技を円滑におこなえた。 ②研修会の内容をふまえ、授業内容の調整をおこなえた。
宗教科	①学年毎のシラバスの継続性 ②授業内容の充実と授業力の向上 ③学院方針アイデンティティ教育の実施	①非常勤教員との意思の疎通を図る ②高1の総合(アンテナタイム1)で1～2コマ程度行う ③道徳の教科化への対応	他校事例などの情報収集や教科会議での振り返り。教務部との調整		非常勤講師について、本年度は殆ど困ったことはなかったが、中学2年生のクラスに騒がしくする生徒が複数おり、非常勤講師が遠慮してしまうという自体が起った。次年度は担任の先生などと話し合いながら丁寧な対応を取りたいと考えている。
Ⅹ. その他					
職員会議	今年度の重点目標 ①会議の円滑化・時間短縮 ②活発な意見交換、発言の機会の充実	具体的な取り組み計画・内容 ①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	評価指標(目標) ①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか	自己評価 ①○ ②○ ③○	自己評価のコメントと今後の課題 ①適宜デジタルでの採決を適用した ②可能な限り早めのレジュメ配信を行った ③守られていたと感じている
運営委員会	①会議の円滑化・時間短縮 ②現場の状況を把握し共有する	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか②必要な情報共有はなされているか。③時間は守られているか。	①○ ②○ ③△	①意見交換に時間を要することもあったが十分に議論できた ②チャットなども利用し意思疎通が図れた ③意見交換に時間がかり過ぎる場面もあった
M1プロジェクト	①各学年の模試などの学力推移の情報共有 ②S選抜コースの充実を図るとともに、進学実績向上のための新たな取り組みを検討する。	①模擬試験の結果が出次第実施し、コース別、教科別で得意分野、苦手分野を把握 ②苦手分野の克服に関して情報交換	苦手分野を克服し、学力向上につながったかどうかを模擬試験ごとに検証する。	○	会議を実施し、各学年の模擬試験の結果を中心に学力状況を共有した。
判定会議	①会議の円滑化・時間短縮 ②活発な意見交換、発言の機会の充実	①議題の整理 ②議事・報告事項の事前共有などの工夫	①審議事項において活発な議論がなされているか ②必要な情報共有はなされているか ③時間は守られているか。	①○ ②○ ③○	①十分議論できた ②資料も適切に作成されていたので十分情報共有できた ③守られていた
事務室	①業務改善および計画通りの会計業務運営 ②施設・設備保全計画の立案 ③効果的な生徒募集広報の実行	①業務進行の可視化と業務内容の見直し ②校内全体の施設改修計画と合わせて、A館外壁改修の施工時期等の調整。中期保全計画の立案 ③効果的な広報戦略を立案・実行、中高ともに志願者増、予算定員の確保	①一人当たりの平均残業時間、対前年度(2023年度)比マイナス3%。 ②計画通りの実行及び、突発的な施設設備改修への対応。A館等外壁改修の施工時期等の確定 ③予算志願者数・予算定員の確保	①△ ②○ ③○	①全体で増加してしまった。繁忙の時期に派遣職員の退職などが重なり事務室全体が煩雑となったが、滞りなく業務進行できたことは評価できる。 ②ほぼ年度内の改修計画は完了した。トリニティホールからの映像配信については、放送から配信へ考えを変えて次年度に業者と実施計画を進めることとなった。突発的な改修については対応できた。A館等外壁改修の施工時期については検討は進んでいるが、業者との打合せ・見積り取得できたので、実施時期の確定と予算確保が今後の課題である。 ③志願者数確保、定員充足
保健室	①感染症対策 ②情報共有の徹底 ③自己管理能力と自己決定能力、自己肯定感の向上	①生徒自ら予防対策が実践できるよう指導、行事における対策の徹底 ②特に外科対応時の校内、保護者との連絡共有 ③来室時の対応や保健委員会活動の充実	①校内感染の抑制 ②情報共有の徹底 ③丁寧な問診と対応、委員会活動の充実	①○ ②○ ③○	①学級閉鎖クラスの減 ②特に管理職と体育科と連携、事故防止へつなげることができている
図書館	①図書館利用と読書の推進 ②図書館登校生徒への対応の充実 ③将来の蔵書管理PC更新計画 ④館内での感染症対策	①図書館や図書館の資料を利用した授業を推進する。 ②図書館登校生徒に適切なケアを行い、必要な情報をスタッフと共有する。 ③将来の図書館蔵書管理PCのあり方を引き続き検討する。 ④コロナ禍の経験を踏まえ安、全に図書館利用をしてもらえるように、感染予防に努める。	①過去の取り組みとの比較 ②生徒の思いを大切にしつつ、精神的な安定と、教室復帰を目標とする。 ③蔵書データ等のクラウド保管の可能性などを継続的に研究する。 ④生徒に安全に利用してもらえたか	①○ ②○ ③△ ④○	③については、今年度には新しい情報はありませんでした。物価高も懸念される中、継続的に情報収集したいと思います
同窓会	①学校行事やクラブ活動とのつながりによる関係強化 ②卒業生教員による同窓会支援の強化	①行事ごとと同窓会長等の招聘により生徒に同窓会を意識させる ②永年会員費の納付状況等を同窓会に確認する	①行事での招聘・部活動報告を関係委員会へ報告 ②納付状況が芳しくない場合は、個別にアプローチをする	①○ ②△	①同窓会報への原稿提供、行事を通しての同窓会とのつながりを保つことができて いる。 ②声かけを失念していたのと同時に、未徴収の方がどなたか事前に知る必要があると感じました。
PTA	コロナ禍の経験も踏まえつつ、安全で楽しい活動を心がける。	PTA活動の準備内容等の情報を担当教員、職員、PTA役員保護者などで共有する。コロナ禍の経験も踏まえつつ、今後の活動の在り方を保護者役員の皆様と共に検討する。	PTA担当教職員、保護者役員の皆様による振り返り。	○	保護者の皆様には積極的に関わっていただき ました。ありがとうございました